

立川市の不登校等への取り組みについて

令和元年10月10日
総合教育会議資料3
教育部指導課

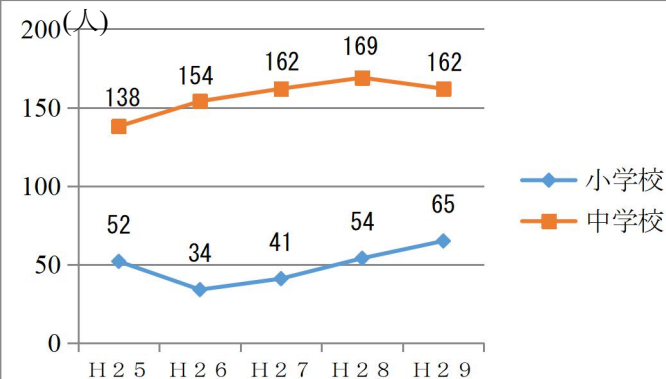
1 不登校の現状（平成29年度結果）

<分析>

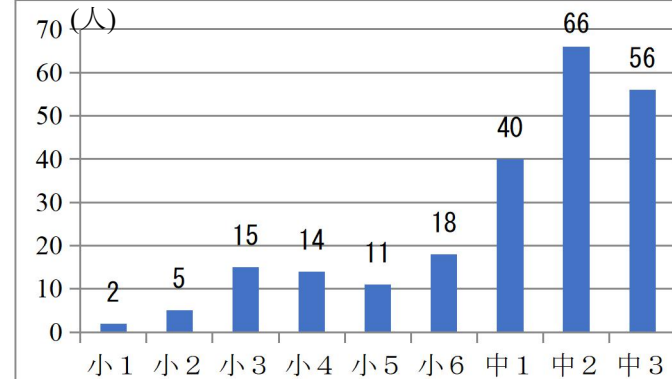
- 小、中学校ともに不登校出現率は高い。
- 中学校第2学年まで学年進行とともに増加する傾向がある。
- 要因は原因の特定が難しいものが多い。

	立川市	都	国	(%)
小学校	0.75	0.56	0.5	
中学校	4.11	3.78	3.4	

不登校児童・生徒の推移



不登校児童・生徒数の学年別内訳



立川市の不登校の主な要因

分類	小学校	中学校
「不安」の傾向がある。	56.9%	37.7%
「無気力」の傾向がある。	26.2%	25.3%
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	9.2%	17.3%
「あそび・非行」の傾向がある。	1.5%	2.5%
「その他」 (理由がはっきりしない。)	6.2%	17.3%

※ここでは欠席30日以上を不登校としている。

2 今年度の立川市の取組

三つの取組を組み合わせ、児童・生徒一人一人の状況に応じた支援を講じる。

○児童・生徒、保護者等に働きかける

- 担任や教員など
 - 家庭と子どもの支援員
 - スクールカウンセラー
- 学校内部での取組
- 校内委員会
 - 学級カスタマードの活用
 - 毎月教育委員会へ報告
- スクールソーシャルワーカー
 - 学校経営支援主事
 - 指導主事など
- 不登校対応チーム
- ケース会議等

○外部機関と連携して働きかける

- 教育支援課による巡回相談、教育相談など
 - 子ども家庭支援センターとの連携による家庭支援など
 - 福祉保健部生活福祉課ケースワーカーによる家庭支援
 - 児童相談所による虐待や非行などへの対応
 - 民生委員、民生児童委員との連携など
 - 教育委員会研修等での有識者からの助言の活用
- 臨床発達心理士 松本くみ子氏 ・ 大学教授 小林 幹夫氏

○多様な居場所を確保する

- 保健室登校等、教室以外での別室登校の工夫
- 心を落ち着けるためのフリースペースの工夫
- 適応指導教室による学校復帰プログラム
「おおぞら」「たまがわ」
- 小学校特別支援教室キラリの全校配置
- 中学校特別支援教室プラスの設置と全校配置への取組
- 小学校自閉症・情緒障害学級設置の検討 など

3 今後の方向性

未然防止・早期発見・早期対応を中心としながら、三つの取組を活用し、児童・生徒の状況に応じて、次のStepを参考に継続的な対応を進める。

【未然防止・早期発見】毎月の不登校傾向の児童・生徒を報告し、学校・教育委員会等で情報を共有する。3日連続欠席で家庭訪問、4日連続欠席で市教委への報告を徹底する。

Step 1: 一人一人の児童・生徒の状況に応じて、多様な手だてを講じ、孤立を防ぐ。

Step 2: 一人一人の状態にあった居場所を確保し、1日でも登校日数を増やす。

Step 3: きめ細かい働きかけを継続し、定期的な登校につなげていく。

検討案

- ①全中学校の教室以外に居場所を設置し、個に応じたきめ細かい指導につなげる。
- ②有識者を交えた不登校対策を検討する委員会を設置する。
- ③ICTを活用した多様な不登校支援の在り方を検討する。